

(参考) 名古屋大都市圏のリノベーション・プログラムの骨子

<対象地域>概ね、名古屋市の都心から 30km 圏

<計画期間>約 50 年

<現状>

- ・「ものづくり」産業の集積
- ・金融、情報発信、国際化の遅れ
- ・高度成長期に拡大した市街地
- ・ゆとりのある居住環境を形成
- ・自立性の高い環状都市群 等

<今後 50 年での変化>

- ・人口・世帯数の減少(三県で 2010 年 1114 万人 2050 年 895 万人へ)
- ・超高齢社会へ
- ・情報技術の革新と産業の変化
- ・地球環境重視の深刻化
- ・投資余力の減少 等

<名古屋大都市圏の将来像>

自立した個性的な都市が連携しつつ、ものづくり産業を基盤とする国際的な都市文化を擁し、同時に、地球環境問題にも呼応して自然資源や農業、歴史文化と共生する豊かな生活の場となるような 21 世紀にふさわしい世界に開かれた自立型の都市圏。

「世界ものづくり・文化都市圏」“ MONOzukuri ”, Cultural CityPlex open to the world ”

<リノベーションの視点>

- ・世界の都市と並び立つ「グローバル・アイデンティティ」の確立
- ・地域に根ざした活力と魅力的な個性を持つ「ローカル・アイデンティティ」の回復
- ・成熟社会に対応した新たな生活の質「クオリティ・オブ・ライフ」の強化
- ・地球環境問題に呼応した低負荷循環型社会「サステナブルな都市」の実現

<地域構造再編の方向>

高次な都市機能・空間の拡充

各都市の活力・魅力の回復と新たな都市連携の創出

産業活動と人・物・情報の流れの創出及びそれを支える社会インフラの構築

市街地の計画的縮減と生活環境の再編

環境に優しい新たな地域システムの創出

災害に強い安全・安心なまちづくり

<リノベーションのプログラム>

短期～2010 年頃：人口増加の最終期間。

投資余力のある内に国際的な競争力の向上のための国際機能の集積、インフラ整備を進める。緊急性の高い防災対策を強化。拠点都市等での市街地の再編、生活環境の改善に着手。

中期～2025 年頃：世帯数が減少し始め、団塊世代が後期高齢化。計画されている社会基盤が概成。老朽住宅や空家が増加。新たな科学技術等の実用化が進展。

人口減少に対応して市街地の再編と居住環境・生活サービス水準の向上を推進。環境、新エネルギー、観光産業等新しい柱となる産業を育成。

長期～2050 年頃：人口・世帯が減少し、高齢化が一層進展。

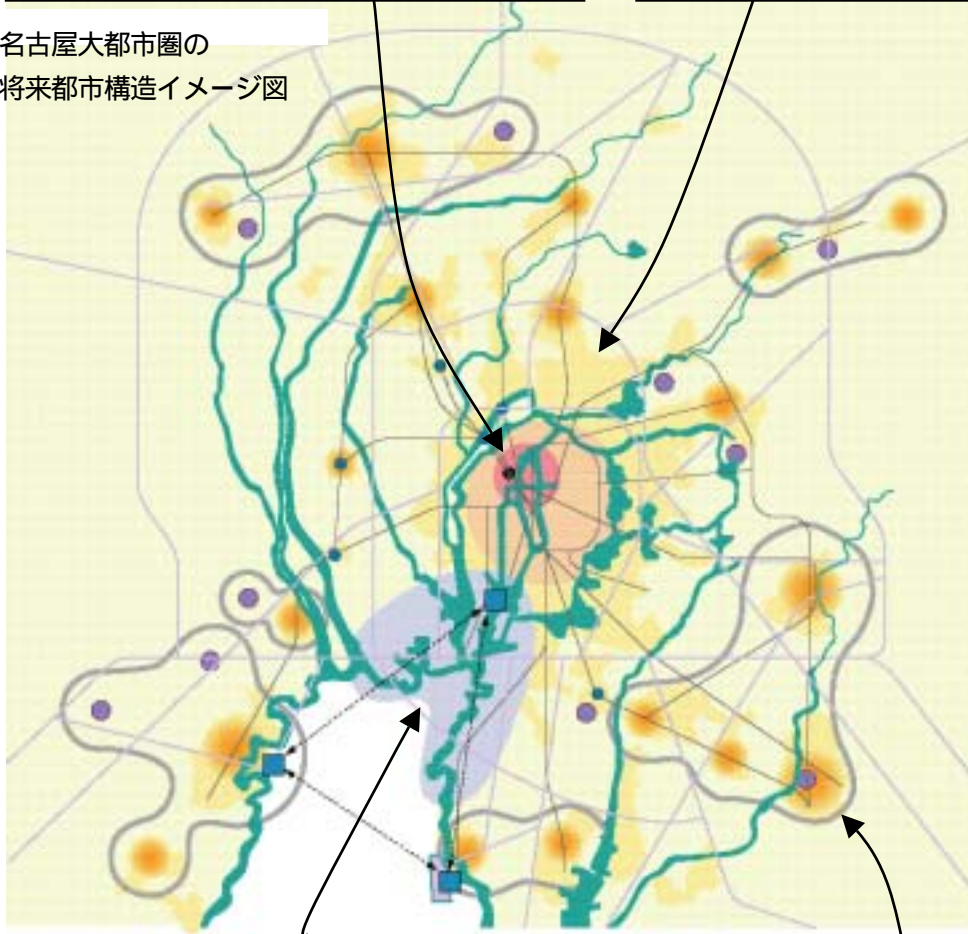
国際的な「世界ものづくり・文化都市圏」としてアイデンティティの確立。自立的な低負荷循環型のクラスターの形成。質の高い生活圏の形成。

<地域ごとの再編整備の考え方>

- (1)名古屋市街地
- ・コンパクトな都市が有機的に結びつく都市圏構造のコアとしての整備の推進。
 - ・名古屋都心部は、経済・文化の中心性、情報・交流・居住等の機能を強化し、多様な都心の魅力と生活の質を強化。
 - ・高水準の都市基盤や公共交通網を活かし、安全・快適・便利で質が高いサステナブルな居住地として再編整備。 等

- (3)名古屋周辺部
- ・多面的な活動を行う新たなライフスタイル・ワークスタイルの場として再編。
 - ・環境インフラによって地域を分節し、コンパクトで自立的な生活・活動圏の集合体として再編。
 - ・中心市街地等で都市活動・生活の拠点を育成し、都市型の生活と産業活動の活性化を推進。 等

名古屋大都市圏の
将来都市構造イメージ図



凡 例

- 名古屋都心部
- 名古屋市街地
- 名古屋臨海部
- 比較的稠密な市街地
- 拠点中心市街地
- 緑地または親自然型居住地
- 環状都市群における特に稠密な活動カプセル
- 駅近傍遊休工場跡地等の土地利用の高度化・土地利用転換と併せた活動拠点
- 環境インフラ
- 主要な自動車専用道路
- 主要な鉄軌道
- 研究開発拠点
- 港湾、空港
- 港湾、空港の連携

- (2)名古屋臨海部
- ・陸海空の交通結節性を活かしたロジスティクス拠点の形成。
 - ・産業の活性化・高付加価値化と構造転換、新たな産業活動の展開。
 - ・ウォーターフロントの親水性の強化、大規模な敷地を活用した公園・緑地の創出等、環境インフラの整備。
 - ・環境関連産業の集積等による、環境先進地域化。
 - ・大規模地震や台風等の災害に対する防災機能の強化。 等

- (4)環状都市群
- ・これまでの歴史文化や産業等を活かしながら個性的なローカルアイデンティティを再生し自立性を回復。
 - ・新たな環境・健康・観光産業等により、都市・地区間の活動連携を図り、都市圏全体の活力・魅力の強化・多様化を担う。
 - ・立地特性や歴史文化を活かした新たな産業の立地誘導と、中心市街地の活性化と居住人口の増大を推進。 等

<シンボル・プロジェクトの推進>

リノベーション・プログラムを先導するため、以下の4つの「シンボル・プロジェクト」を推進。

(1) 世界産業首都創生プロジェクト

世界の中で名古屋大都市圏の存在を高め、国際競争力を強化するため、名古屋都心の中心性を強化し、新しいものづくりの中核圏域を形成することによって、産業面で世界の首都となるような都市圏を創生する。

名古屋コスモコアの形成
環境・エネルギー・新産業の創出
メガポート・コンプレクスの形成

(2) 生活文化圏創造プロジェクト

これまでとこれからのものづくり産業活動と市民生活を融合しつつ、新たな文化創造のネットワークを形成し、より豊かな生活創造と新しい観光産業の育成により、地域の自立性を高める。

個性ある地域づくり
ものづくり文化回廊の創出
新たな生活文化産業の創出

(3) 高質居住空間創出プロジェクト

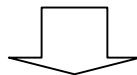
人口減少に対応して、既成市街地の計画的縮減と良好な社会資本ストックの活用を両輪に市街地を再編し、質の高い豊かな生活と高齢者や女性を含む全ての人にも便利で安心して暮らせるコンパクトな生活圏を創出する。

市街地の計画的縮減と空間の質の改変
コミュニティ・コアの形成
セルフヘルプ・マネージメント

(4) 新世紀環境創造プロジェクト

21世紀において、持続可能な都市圏づくりを目指し、ヒートアイランドの抑制や身近なやすらぎとうるおいの提供、省資源・省エネ社会の構築、安心・安全社会の確立を図るため、環境インフラの整備や資源循環システム、防災システムを創出する。

環境インフラの整備
資源循環システムの創出
防災システムの創出



<リノベーションの実現に向けた取り組みの推進>

シンボル・プロジェクトの推進に向けた取り組みの推進

名古屋大都市圏のリノベーションを効果的に推進していくためには、地域・主体・領域横断的な体制により、リノベーション・プログラムを先導するシンボル・プロジェクトを推進することが重要。

大都市圏整備体系、推進体制などの確立

大都市圏整備の実現にあたっては、一体的な圏域形成という観点からの各主体の意思決定プロセス、多様な施策を横断的・総合的に実施していくための計画策定から実施・評価までの一貫した仕組みづくりを検討していくことが必要。

リノベーションのための新たな評価指標の具体化

今後大都市のリノベーションを進めていくためには、市民をはじめ、地域におけるきわめて多様な主体の参加が不可欠となる。その際、計画策定から評価に至るプロセスの中で、誰にでもわかりやすい指標（ベンチマーク）を設定し、リノベーションの目標の設定や達成度評価をしていくことが必要。